

平成28年度 田原小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

豊かな心や健やかな体を持ち、自ら考え、取り組み、判断し、
新しい時代を創造的に生きる児童を育成する。

- (1) かしくく — よく考え がんばりぬく子ども
- (2) なかよく — すなおで 思いやりのある子ども
- (3) 元気よく — じょうぶで 明るい子ども

【今年がんばる4つのめあて】

- めあてをもってねばり強く学習に取り組もう
- 気持ちの良いあいさつを心がけよう
- 正しい言葉づかいを身につけよう
- たくさんの友だちと元気に外遊びをしよう

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

次代を担う児童一人一人が、社会的自立を果たして未来を創造的に生きていく力を身に付けることができるよう、教職員がそれぞれの持ち味を発揮しながら、家庭・地域と連携し、共に本校の教育を担う者として英知と熱意を結集することにより、一体感のある活力に満ちた教育活動を展開する。

児童の発達の段階や個人差に目を向けつつ、同時に、人としての成長は、望ましい集団の中で保障され、促進されることを重視し、常に「個」と「集団」の双方の視点を持ちながら、教育目標の達成を目指して、あるべき学校教育の姿を追求し続ける。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1) 児童一人一人が大切にされていると誰もが実感できる学校

「田原小は、児童一人一人を大切にし、温かい雰囲気包まれている」と、児童・保護者・地域住民の誰もが実感できることが、学校に対する信頼感を生み、日々のさまざまな取組が教育的に意味をなす母体となる。

(2) 児童・教職員の双方にとって居心地の良い学校

優しさ（母性）と厳しさ（父性）のバランスの上に、「護られている感覚」や「伸び伸びと自分を表現できる安心感」が生まれ、「居心地の良さ」や「楽しさ」につながる。この点においては、児童・教職員とも同じである。

(3) 児童に内在する「育つ力」が十分に発揮される学校

～ 確かな学力、健康な体と体力、豊かな心と社会性の育成 ～

児童が生涯にわたって自分らしさを発揮しながら、社会的自立を果たし、充実した生活を送ることができるよう、発達著しい児童期に必要な学習や体験を十分に積ませる。個々の児童が持つ「育つ力」を引き出し、可能性の芽を膨らませていく。

(4) 家庭や地域と連携して教育効果を高める開かれた学校

教育資源として家庭・地域の活用を図り、活動の幅を広げることににより、教育効果を高める。地域のシンボリック的存在として、主体性を発揮しつつ、敷居を低くして積極的に地域に開いていくことが、地域に愛され、見守られる安全な学校環境づくりにもつながる。

(5) 教職員が連帯協働し、共に高め合いながら質の高い教育を提供する学校

教育活動の中核をなす授業や学級経営などについて、教職員が学年を超えてオープンに、日々の実践や指導上の悩みなどを語り合える雰囲気を大切にする。各教職員が、自由闊達に交流することが、和やかな学校の雰囲気を形成し、質の高い教育の提供に反映される。

(6) 校務を適正に処理し、組織として社会的責任を果たす学校

教育目標の達成に向けて、学校運営が滞りなく進行していくために、教職員一人一人が法令を遵守し、教育公務員としての自覚と使命感を持って、学校運営に係るさまざまな校務の処理を適正に行う。すべての教職員が、学校を代表する存在であることを常に念頭に置いて職務に当たる。

[田原地域学校園教育ビジョン]

自らすすんで何事にも取り組む子どもの育成

4 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

「魅力ある学校づくり地域協議会」と連携し、地域の教育力を活用した教育活動を展開するとともに、積極的な情報発信と学校開放、地域との交流活動を通して、家庭や地域から信頼され、地域に開かれた学校づくりを推進する。

【学 習 指 導】

かかわり、見つけ、学びをつなげていく児童の育成

【児 童 生 徒 指 導】

○進んであいさつをし、相手の気持ちを考えて行動できる児童の育成

【健康（保険安全・食育）・体力】

○実践的な基礎知識を学び、進んで健康の保持増進と体力の向上を目指す児童の育成

～自ら進んで身体を鍛える体育活動の企画と実践～

- ・運動習慣の定着と体力の増進（持久力・投力）
- ・児童生徒の心と体の健康づくり
- ・丈夫な体をつくるための食事のとり方の指導

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項 目	評価項目	主な具体的な取組	方 向 性	評 価
学 校 運 営 の 状 況	A 1 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】全体アンケートの「私は今の学校が好きです」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 学校評価や学校行事の反省等を生かし、児童が生き生きと活動する教育活動を行い、活気のある学校づくりに努める。 ② 集会活動・体験活動などを工夫し、児童が生き生きと活動できるよう努める。 ・縦割り班活動の充実 ・外部講師等による体験活動の充実 ・児童集会・音楽集会の充実 ③ 教育相談の機会を生かして、より良い人間関係づくりに努める。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 90.2%で昨年度と同等で指標を上回っている。保護者は 94.1%, 地域住民は 100%で、それぞれ高い肯定的回答を得ており、適切な教育活動の設定と実践が評価されたと考えられる。 【次年度の方針】 ・縦割り班遊びなど、縦割り班活動がより児童主体の活動となるよう工夫していく。 ・今後も地域の特色を生かした体験活動や児童主体の集会活動などを充実させ、地域とのつながりや達成感を味わわせていく。 ・児童の交友関係の変化などに目を配り、教育相談の機会を生かしたりなどして、より良い人間関係づくりに努める。
	A 2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】全体アンケートの「先生方は、大切なことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 全職員が学校経営に参画意識をもって、協力して教育に当たるように努める。 ② 児童一人一人をよく見取り、声をかけ、よく話を聞き、良いところは認め、指導すべき事はしっかり指導する。 ③ オープンスクール、授業参観等を工夫していろいろな学習の様子を公開し、学校理解を深めるよう努力する。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 98.2%で、指標を十分に上回っている。 【次年度の方針】 ・学習の様子が一目で分かる板書計画の工夫、学習規範の統一、言語活動の充実等を通して、基礎・基本を定着させるとともに、思考力・表現力・判断力の育成を図っていく。 ・オープンスクールや授業参観等を工夫していろいろな学習の様子を公開し、今まで以上に学校理解を深めていく。

A 3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】全体アンケートの「授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 学校でのきまりを徹底するために「田原小のやくそく」や「よい子の一日」を提示し、教職員が共通理解の下、生活指導はもちろん、学習指導や日課等でも、きまりを守ることの大切さを繰り返し指導する。また、きまりの定着のため家庭との連携も図る。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 85.3%で十分に達成されている。 【次年度の方針】 来年度も「田原小のやくそく」「よい子の一日」を中心として、児童・教員・保護者の共通理解のもと指導を継続していく。
A 4 教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】全体アンケートの「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 各教科で標準授業時数（文科省）を確保するとともに、「基礎学習の時間」において、漢字・計算・音読などを発達段階に応じて取り入れ、基礎的・基本的な内容の確実な定着が図れるよう努める。 ② 一人一授業公開を目標に、「わかる・できる・楽しい」授業の工夫に努める。 ③ 「田原っ子の学び」を継続実践して主体的に学習する態度を育てる。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答が 97.3%に上がり、十分達成されている。 【次年度の方針】 ・「田原っ子の学び」の活用型・問題解決型学習の進め方の共通理解と全校体制での実施を継続していく。
A 5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】全体アンケートの「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 年4回「いじめアンケート」を実施し結果をもとに担任が関係児童との教育相談を行い、解決を図る。解決が不十分な場合は、いじめ対策委員会による解決を図る。 ② 年2回の「いじめ根絶強化月間」に合わせ、標語・学級宣言文・個人の意見文を作成・掲示することにより、個々の児童の意識を高めるようにする。 ③ 「いじめのなかよし集会」を行うことにより、学校全体の意識を高める。 ④ いじめ根絶への取り組みを保護者にも伝え、協力を得やすくする。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 95.5%に達しているが、保護者・地域の肯定的回答が低い。 【次年度の方針】 ・学校で起こった「いじめ」について、件数や学校側の対応について、学校で「いじめアンケート」や「教育相談」を行った時期に、学校だよりなどを通して、情報を公開し、保護者や地域の理解を深める。
A 6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている 【数値指標】全体アンケートの「私の学校生活や様々な活動は充実している」⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 小中一貫教育の趣旨を踏まえ、夏季休業中の授業実施や土曜授業、日課を工夫することで授業時数を確保する。 ② 児童の主体的な活動や体験的な活動を取り入れ、行事ごとに評価を実施し改善を図るようにする。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 89.3%で、指標は達成された。 【次年度の方針】 ・児童の実態や昨年度の反省を基に、引き続き児童の主体的な活動や体験的な活動を充実させていく。
A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりが進められている。 【数値指標】全体アンケートの「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」⇒保護者の肯定的回答 85%以上	① 「オープンスクール」や授業参観等を学期に2日以上実施し、学校公開を保護者だけでなく、地域に向けても積極的に行う。 ② 学校だよりを毎月1回発行するとともに、ホームページを定期的に更新して、保護者や地域住民など多くの人に知らせる。	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 99.1%で昨年よりアップし、目標を十分に達成している。今年度ホームページがほぼ毎日更新され頻繁に情報発信がされるようになった。 【次年度の方針】 ・参加率を上げるため、オープンスクールや授業参観の日程や方法・内容を工夫する。 ・いろいろな機会にホームページを紹介し地域の方にも見てもらえるようにする。

教育活動の状況		A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った地域の学校づくりが推進されている。 【数値指標】全体アンケートの「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し楽しい」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 「魅力ある学校づくり地域協議会」との連携を強化し、学校・保護者・地域住民が一体となって、教育活動の充実と活性化を図る。 ② 授業ボランティア（地域の外部講師・街の先生）と連携した授業を計画的に実施し、その成果についても広く情報発信するよう努める。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 91.5%で、指標を達成することができた。保護者・地域の肯定的回答の割合も高い。 【次年度の方針】 ・各学年において授業ボランティアと連携した授業を計画的に行うことができた。地域連携教員を中心に新たに地域ボランティアとの連携により効果的となる教育活動を増やしていく。 ・ボランティアの活躍の様子を各種便りやホームページで伝え、多くのボランティアにお世話になっていることを保護者に紹介していく。 ・今後、総合的な学習の時間を中心に、地域への貢献を意識した単元開発を図っていく。
		A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】全体アンケートの「学校は、清掃が行き届き、荷物や備品などが整理整頓され、学習しやすい環境である」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 毎月、施設・設備の安全点検を実施し、修繕・補修を迅速に行い、学習にふさわしい環境づくりに努める。 ② トイレと水道周りは、常にきれいに維持できるように、使用法の徹底を図るとともに、清掃活動において重点的に指導する。	A	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 91.2%で指標は十分に達成されているが、改善できる点もある。 【次年度の方針】 ・備品の管理を学年ごとの資料室ではなく、各教科の資料室とし、備品の所在を明らかにしてより学習しやすい環境を整える。 ・清掃用具を見直して掃除の効率を上げ、少ない人数でも清掃活動ができるようにする。
		B 1 学校は、事故防止・安全対策に努めている。 【数値指標】全体アンケートの「学校は事故防止や安全対策に積極的に取り組んでいる」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上	③ 月1回の全校下校、毎日の学年下校、交通安全教室、不審者対応避難訓練、引き渡し訓練を実施する。 ④ 家庭・地域との連絡体制（田原小安全対策連絡会による防犯パトロール・子ども110番の家・保護者、地域への情報提供）を継続し実施する。	B	【達成状況】 ・教職員、地域住民、児童の3者が100%または95%以上、肯定しているが、保護者の肯定的回答は85%に下がり指標を達成できなかった。 【次年度の方針】 ・今後も避難訓練や引き渡し訓練を実施し、地域や家庭との連携を強化する。不審者情報等を速やかに提供し、地域で共有できるようにする。 ・田原街道のバイパス延伸など、交通事情の変化に応じた通学路の設置や安全対策を講じていく。
	生活	A 10 児童は、進んであいさつをしている。 【数値指標】全体アンケートの「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 地域学校園で毎月第2週をあいさつ週間とし、その実施方法を工夫し、地域とも協力して基本的生活習慣の育成を図る。 ② 地域協議会と連携し、あいさつ標語を募集し、優秀作品を掲示するなどして、あいさつへの関心・意欲を高める。 ③ 保護者・地域の方にも模範として児童へ積極的にあいさつの言葉をかけていただくよう依頼する。	A	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 93.3%で指標を達成したが、保護者の肯定的回答が 66.2%と低い。 【次年度の方針】 ・本年度取り組んだ児童の運営委員会や兄弟学年によるあいさつ運動に加えて、実際の児童のあいさつ状況を把握し更に活発にするために、PTA 生活指導部の保護者の方も参加するあいさつ運動を学期に1度くらい実施する。
		A 11 児童は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】全体アンケートの「児童は、時と場に応じた言葉づかいをしている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 気持ちよい言葉づかいや返事について共通理解を図るとともに、日常的な指導を繰り返し実施し、保護者にも協力を呼びかける。 ② 職員室入室時のあいさつ訓練等を継続指導する。	A	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 75.8%で指標を達成できなかった。あいさつと同様に保護者の肯定的回答も 66.2%と低い。 【次年度の方針】 ・家庭や学校での児童の正しい言葉づかいを推進するために、「自主学習カード」に家庭でのあいさつ・言葉づかいを確認する項目を加え、家庭・学校が協力した指導体制をとる。

健康・体力	A12 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】全体アンケートの「児童は休み時間や放課後などに進んで運動している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 元気っ子健康体力チェックの結果などをもとに、定期的に重点運動を決めて、児童が目当てを持って運動に取り組めるようにする。 ② 体力や技能を向上させるための取り組みを、年間を通して実施する。 ・縄跳び、水泳、鉄棒の検定カードを活用する。 ③ たわらの時間や昼休みに外遊びを奨励する。遊び塾を通して異学年交流や遊びの種類を増やす。	【達成状況】 ・教員や児童の肯定的回答はそれぞれ 100%、88%と高いが、保護者への質問内容が「休み時間・放課後」から「放課後・休日」に変わったためか、保護者の肯定的回答が昨年より約 20 ポイント低下して 71%となった。 【次年度の方針】 ・学校便りや学年便り、ホームページなどを利用して、各種検定カードを使用して運動に取り組んでいることを発信したり、校外でも休日や放課後における屋外遊びを奨励したりする。
	A13 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】全体アンケートの「児童は、好き嫌いなく給食を食べている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 栄養職員と連携した食育に関する授業を計画的に取り入れる。 ② 給食便りを毎月1回発行し、栄養面を含め食育や健康に対する家庭の意識の高揚を図る。 ③ 家庭との連携を図り、食育の啓発に努めるとともに、「お弁当の日」の計画、実施を進める。 ④ 栄養職員とのTT授業をさらに進め、栄養や残菜への関心を高める。	【達成状況】 ・教職員と地域住民の肯定的回答は 90%近い。保護者と児童の肯定的回答は 70%台とやや低めだが、昨年よりはどちらも若干上昇している。 【次年度の方針】 ・半年、1年という長い期間で見えてみると、少しずつ好き嫌いや残食量が減ってきているので、残食調査の結果等と共に、好き嫌いなく食べることの大切さを記載した通信を今後も配付し続け啓発を図る。
	B3 児童は、自分の健康のために、手洗い・うがい・歯磨きを進んで行っている。 【数値指標】全体アンケートの「自分は、健康のために、手洗い・うがい・歯磨きを進んで行っている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 保健便りを発行し、健康な生活習慣を身につけるための情報発信をする。 ② たわらの時間や昼休みなどの外遊びの後、給食後の場面で、手洗い・うがい・歯磨きの励行を呼びかける。 ③ 長期の休み以外にも、うがいカレンダーや歯磨きカレンダーを時折実施して、意識を継続させる。	【達成状況】 ・教職員、地域住民、児童は、いずれも 100%や 90%前後の肯定的回答だが、保護者のそれは約 75%と低い。 【次年度の方針】 ・正しい手の洗い方、うがいの仕方などの指導を今後も継続指導する。 ・学校だけでなく、家庭に戻ってから外遊びや手伝いの後は手洗い・うがいをするよう学校全体で指導する。
	A14 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート「児童は授業中に進んで話し合い、分かりやすく発表するなど、積極的に学習している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 授業の準備を忘れず、休み時間のうちに用意する。 ② 1時間に一回発表を目標に授業に取り組ませる。 ③ 話し合い活動を積極的に取り入れる。 ④ 板書したことをきちんとノートに書き写したり、工夫してノートにまとめたりすることができるようにする。	【達成状況】 ・保護者・児童の肯定的回答は約 85%で指標は達成したが、昨年度よりは減少している。 【次年度の方針】 ・「次の授業の準備をしてから休み時間」を指導徹底する。 ・具体的な取り組みの②と③の記述を、「学び合いの活動を積極的に取り入れる。」とし、次年度の宇小教研B部会の発表に向けて国語科を中心とした言語活動に重点を置いて指導をする。

	A 15 児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート「児童は授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している」⇒児童の肯定的回答 80%以上	① チャイム着席をさせる。 ② 授業中の姿勢や話を聞くときの態度について指導する。(合言葉で意識づけを図る。) ・姿勢の日の指導を継続する。 ・「足はぺったん・背中はピン・おなかと背中にグーひとつ」	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 83.9%で、指標を達成している。地域の肯定的回答は 100%に上がり、落ち着いて学習に取り組む姿が見られる。 【次年度の方針】 ・授業中の姿勢や聞く態度は、各学年の発達段階に応じて指導する。 ・姿勢の日に関しては、養護教諭と連携して継続指導をしていく。
	B 2 児童は、家庭学習の習慣が身に付いている。 【数値指標】全体アンケート「私は、宿題や自主学習を進んで行っている」⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 毎日宿題を出す。 ② 自主学習の内容を指導する。模範的な自主学習の内容を紹介する「自主学習のすすめだより」を発行する。 ③ 「家庭学習のすすめ」を通して家庭の理解・協力を得る。	A	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は、85.3%で達成されている。 【次年度の方針】 ・自学表は、次年度継続する。 ・「自学のすすめだより」は、家庭学習がんばり週間の際、学習指導主任が発行する。 ・学年便りに「人権教育」と同様、「学習指導」に関する欄を設けて家庭学習の啓発を図る。
	B 4 本を読むことの楽しさや大切さがわかる。 【数値指標】全体アンケート「私は、進んで読書をしている」⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 心穏やかに読む、静かな朝の読書(朝の活動)を週2回実施する。 ② ボランティアによる「読み聞かせ会」を学年・クラスごとに行うよう年間を通して計画し実施する。 ③ 親子読書を奨励する。 ④ 図書室の開館時間を増やす。 ⑤ 家読を家庭に定着させる。	A	【達成状況】 ・机の横の図書バックには読書する本が常に用意され、時間があると読書に親しむ姿が見られるが、児童の肯定的回答は 73.7%と昨年度よりも下がり指標を達成できなかった。 【次年度の方針】 ・家庭での読書習慣を身に付ける手立てとして、学校から出る行事予定表に「第3土曜日は家庭読書の日」と入れる。 ・自学表に「第3土曜日の家庭読書の日」の記入欄(読書の時間と本の題名等の記入)を設け、家庭読書の啓発を図る。
本校の特色・課題等	B 5 地域の特色を生かした学習の充実を図ることにより、地域を愛する心が育っている。 【数値指標】全体アンケート「私は、地域や企業の人たちと一緒に、地域の自然や文化などについて学習をして、田原の地域のが好きになった」⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 保護者・地域社会との連携を図り、体験活動を重視した地域の特色を生かした学習などを実施し郷土愛の育成を図る。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答が 85.3%と昨年度より若干下がったが、指標は達成している。 【次年度の方針】 ・生活科や総合的な学習の時間を中心に、保護者や地域と連携を図り、体験的な学習を取り入れていく。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

【学校運営部会】

- ・「かしこく、なかよく、元気よく」を具体目標とし、それを実現するための児童の行動目標として「今年度ががんばる4つのめあて ・めあてをもってねばり強く学習に取り組もう ・気持ちの良いあいさつを心がけよう ・正しい言葉づかいを身につけよう ・たくさんの友だちと元気に外遊びをしよう」を設定し、児童に常に意識させ、教職員の共通理解のもと全校体制で取り組んだ。しかしアンケートではこれらについて改善が見られていない部分がある。これからも機会があるごとに「今年度ががんばる4つのめあて」を児童に意識させて、自分で判断し行動できる児童を育てていくが、学校だけでは効果の上がらない内容もあるので、保護者・地域と目標を共有し、協力して取り組んでいく。
- ・教職員の学力向上の取り組み、指導の工夫・改善、わかりやすい授業や個別の指導に対する取り組み、自主学習の定着に関する取り組みや努力については、保護者・地域から理解されている。引き続き、授業参観・オープンスクールを始めとして、学校便り・学年便り等の各種便りやホームページ等で、積極的に発信するとともに、分かりやすい授業・児童が主体的に取り組む授業の定着を図り、児童の変容・学力の向上を図ることで、保護者の理解が深まるよう努力を継続したい。
- ・本校では、「開かれた学校」・「地域の学校」という観点から、オープンスクールや授業参観・学校行事の公開・学校便り・タイムリーなホームページの更新等、様々な情報発信・提供を積極的に行ってきたが、その結果、肯定的回答が保護者 99.1%、地域 100%という高い評価を得ることができたと考える。今後も継続していく。
- ・9年目を迎えた「魅力ある学校づくり地域協議会」の活動内容が充実しており、保護者や地域住民にもこの協議会の認知度が高まってきている。今年度、夏休みに「学校に泊まろう」を立ち上げ、地域で子どもたちを育てる体制づくりに資することができた。この事業が継続できるよう支援していく。今年度は、「宮っこステーション」が立ち上がって6年目を迎え、「放課後

子ども教室」では充実した活動が展開されている。今年度からコーディネーターが増え、より活動が充実したが、安全管理者が不足しており、その確保が急務である。各種便りや学級懇談会等で周知していく必要がある。

○小中一貫教育に関連して、乗り入れ授業や中学校訪問以外に総合的な学習や理科の校外学習で田原中を6年生が訪問する機会が増えた。限られた時間の中で、効果的な活動となるよう、田原中、田原西小と協力して、活動のスクラップ・アンド・ビルドを図っていく必要がある。

【児童指導部会】

- ・きまりやマナーについては、守って生活していると認識している児童・教員・保護者とも増えている。引き続き「田原小のやくそく」「よい子の一日」を児童の生活の規範として、学校・家庭と共通理解のもとに指導を継続していく。
- 学校・児童・保護者とも「あいさつ」に関する児童の意識が高まっている。来年度は、あいさつ運動に保護者も参加してもらい学校や家庭で身に付いたあいさつを地域住民に対しても行えるようにしていく。
- ・正しい言葉づかいについても家庭でのチェックを加え、保護者との連携した指導を行っていく。職員室入室時のあいさつ訓練や「美しい日本語を使おう」と児童に呼びかけたことが大変効果があったので継続指導していきたい。
- ・教師・児童とも「いじめは絶対に許されない行為」とあるという認識がほぼ100%まで高まっている。今後は、学校の「いじめ問題」に対する取り組みや状況を保護者にさらに積極的に伝え、家庭からの協力を得やすい環境を作っていく。

【健康指導部会】

- ・自分の健康は自分が守るという主体的な態度の育成をめざし、養護教諭と学校栄養士が企画した2回の“ヘルシー集会”といった啓発活動を全校生に呼び掛けて行うなどした結果、砂糖や脂肪の取り過ぎに気を付けよう、おやつを食べたら運動しようという意識や興味・関心が少しずつ向上してきている。
- ・給食の残菜量は昨年度より減っており、今年度に限ってみても、年度当初に比べると半分以下に減ってきていることから、好き嫌いなく食べようと言う気持ちや態度が徐々に育ってきている。
- ・しかしながら、長期の休みや放課後における過ごし方を振り返ると、進んで外遊びをする、自発的に手を洗ったり歯磨きをしたりする、好き嫌いなく食べるといったことが十分でないことがうかがえるので、家庭へ配付する各種通信やホームページなどを利用して啓発・奨励を図っていく。
- 地域学校園共通で実施している“給食マナー月間”、“おはなし給食”、“共通献立”、“おすすめ朝食メニューのレシピ作り”などを今後も継続し、食への関心やマナーを高めていく。

【学習指導部会】

- ・授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれると考える児童が多いが、今後も分かりやすい授業を実践し、授業参観やオープンスクール等で公開していく。また、宿題やテスト・プリント・ドリル等を活用してきめ細かな指導を行い、学習効果が上がるようにしていく。
- ・保護者・地域社会との連携を図り、体験活動を重視した地域の特色を生かす学習や教材が豊富にある。これらの多様な体験的活動を取り入れた学習を本校の特色とし、次年度の生活科・総合的な学習の時間の研究発表会につなげていく。
- ・校内は、学習にふさわしい環境となっている。今後も、機動班やボランティアとの連携を図りながら、学習にふさわしい潤いのある環境づくりに努めていく。また、清掃用具を見直して掃除の効率を上げ、少ない人数でも清掃活動ができるようにしていく。
- ・ホワイトボードなどの学習用具を活用し、進んで話し合ったりわかりやすく発表したりする等、積極的に学習に取り組んでいる児童が多い。今後も「田原っ子の学び」や「話し合いのやくそく」の共通理解を図り、自分の考えを分かりやすくノートにまとめたり他者に伝えたりしながら、協同して学び合える授業の展開を目指していく。
- ・進んで読書をしていると考える児童や保護者が昨年度よりも減っている。読書量については個人差が大きい。図書室を利用しやすいように10分間の休み時間にも図書室を開くことを次年度も継続していく。朝の読書や、隙間読書は楽しく読書しているので、学校で読むだけでなく家庭にも持ち帰り読書をする習慣を身に付けさせたい。そのために第3土曜日を家読の日と家庭にも呼びかけ、自学表に記述することで読書の啓発を図っていく。学級文庫を充実させたりボランティアの方々による読み聞かせを実施したりして、読書に親しむ機会を確保していく。
- ・地域の特色を生かした学習の充実を図ることにより、地域を愛する心が育っている。保護者や学校支援ボランティアの授業支援を得て成果が上がった。次年度への引き継ぎを行い、年間の見通しを立てて実施できるとよい。児童にもたくさんの方々にお世話になっていることを感謝できるようにしていく。

6 学校関係者評価

◇ 学校運営全般（学校運営面）について

- ・学校経営の理念が確立し、4つのめあてを掲げ、具体的に努力されている。特に、新鮮な情報発信にホームページが活用され保護者や地域住民との教育課程の共有が図られ、結果として学校・保護者・地域住民の信頼感が高まった。
- ・学校だよりは地域の様子や行事も紹介され、いろいろな人達が学校に係わっていることが分かり、高齢者など楽しみにしている人が多く今後もこの姿勢を続けてほしい。

◇ 児童の様子全般（生活の様子、あいさつや言葉遣い等）について

- ・学校だよりにいじめの現状が掲載された。学校の取り組み姿勢が公開され、児童が社会人として自立する基本「きまりやマナー」への取り組みに家庭・地域・学校が役割分担をしながら人づくりを行っていく環境が整えられつつある。より具体的な取り組みの公開を望む。
- ・あいさつは児童の肯定的回答が高く、保護者は低いという結果から、児童があいさつをしているつもりになっているということが分かる。あいさつを児童に呼びかけるだけでは、今までと変わらない。保護者や地域の大人が進んであいさつをする姿を児童に見せていく必要がある。言葉遣いも同様である。

- ・あいさつ、言葉遣いは家庭での問題が大きいと思う。保護者が朝、元気よく明るい声かけをしているか、言葉遣いも子どもたちの話に耳を傾け、きちんとした優しい返事をしているか振り返る必要がある。

◇ 児童の安全・健康・体力面について

- ・教職員の気配り・目配り・思いやりにより、体力づくりや栄養面など安心・安全に学べる環境づくりへの配慮が見られる。それに地域住民の協力が加わり、多くの子どもたちが学校を心地よい居場所と思っているようだ。
- ・いつもきれいに清掃されており、子どもたちの学ぶ環境を大切にしている様子がうかがえる。授業参観・オープンスクールなど気持ちよく見学できる。
- ・安全面について、各通学路にある子ども110番の家を年に一度くらい児童があいさつに行くと、いざというときに脱げ込みやすくなる。
- ・登下校時は教職員や保護者・地域の方の立哨指導がされているが、交通量が多く、狭い道路が多いので安全とはいえない。バイパスが完成し交通環境が整備されて安全に登下校ができることを願う。
- ・昨年と同様に外で元気に遊ぶ姿が見られとても良い。しかし全体的に肥満傾向の児童が多いので、1年をとおして続けられる運動等を取り入れてほしい。
- ・好き嫌いなく何でも食べるのが理想だが、飽食の時代でなかなか難しいと思う。しかし体づくりのため大切な時期であり、できるだけ残さず食べられるよう、さらに工夫をしてもらいたい。

◇ 学習面について

- ・教職員が創意工夫した教材を使って自信をもって教えている様子をオープンスクールや授業参観などで感じている。特に総合的な学習の時間での、学んだ成果を表現する能力を育む授業に参加し、子どもたち一人一人の将来に役に立つ学習と感じた。全学年に広めてほしいと思う。
- ・授業参観の様子で、先生が一方向的に説明して教えるのではなく、子どもたちの興味関心を喚起する工夫がされていると感じる。子どもたちがグループ毎に話し合いをして発表したり、一人一人が考えて楽しく授業を受けていたりしていると思う。
- ・自主学習に取り組む姿勢が低学年から定着していて素晴らしい。ただし個人差があるようなので、より一層の取り組みに期待する。
- ・読書は学校では読んでいても、家庭で読む児童が少ないようなので、家での読書習慣をつける取り組みが必要になる。保護者と一体になって推進していく。
- ・落ち着いて学習していると思うが、おとなしい反面、積極性に欠けている。自分の考えをはっきりと表現できるよう指導を続けてほしい。

◇ 総合的な評価に関すること

- ・教育目標を達成するための「今年がんばる4つのめあて」がとても素晴らしいので、保護者・地域も含めて取り組んでいきたい。
- ・的確な評価がされていると思う。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

◇ 学校教育全般（学校運営面）

- ・学校関係者評価では、概ねよいとの評価をいただいた。アンケート結果で保護者・地域住民の肯定的回答が低い項目の、あいさつ、言葉遣い、読書習慣、手洗い・うがい、食べ物の好き嫌いなどは、学校の中だけの指導では定着・習慣化できない内容が多く、保護者・地域と共同で取り組んでいく体制をつくっていく。
- ・魅力ある学校づくり地域協議会と協力しながら、地域の教育力を活用した教育活動を今後も推進するとともに、地域の方々に学校の様々な情報を発信したり、学校と関わっていただけるような機会を設けたり、児童が地域の文化・自然・産業と積極的に関わったりするなどして、今後とも「開かれた学校づくり」をめざす。
- ・今年度は、ほぼ毎日ホームページが更新され、日々様子を発信していったため、情報公開で高い評価をいただいた。この姿勢を続けていく。

◇ 児童の様子全般（生活の様子、あいさつや言葉づかい等）

- ・あいさつに関しては、新たに児童の工夫によるあいさつ運動が展開され、児童の意識は高まってきた。今年度、力を入れてきた、登下校中に交通指導員さんや安全パトロールの方・保護者の方などには積極的にあいさつをすること、校内で保護者等の来客者にあいさつすることを継続指導して定着させる。また、来年度、保護者にも参加してもらいあいさつ運動を企画・実施していく。さらに、PTAの会議や魅力ある学校づくり地域協議会などで、児童からのあいさつを待つのではなく、地域の方から積極的にあいさつの手本を見せていただくよう協力を依頼する。
- ・言葉遣いに関しては、今年度と同じように学校生活での場面を限定して、その場面での正しい言葉遣いを教えて、徹底させることを継続する。それが定着することによって、いろいろな場面での波及効果が期待できる。

- ・「田原小学校いじめ防止基本方針」、いじめ防止のための児童会活動、いじめアンケートの結果等いじめ防止の活動を学校だより・ホームページで積極的に発信していく。

◇ 児童の安全・健康・体力面

- ・田原街道のバイパス工事に伴い、今年度以上に通学路の状況変化が予想される。保護者、地域、宇都宮土木事務所、東警察署等と連携し、状況に応じた最善の対策を検討・実施していく。
- ・肥満防止や生活習慣の改善を目指して今年度スタートした「へるしー集会」は、児童の意識改善につながってきたので、来年度さらに工夫・改善して継続していく。
- ・食べ物の好き嫌いを無くすことやうがい手洗いの習慣化に関しては、授業参観、オープンスクール等で学校栄養士・養護教諭とチーム・ティーチングで授業を行ったり、保健だより・食育だより等で情報提供・協力要請を行ったりして、保護者との共通理解のもと推進していく。

◇ 学習面

- ・今年度、学び合い・言語活動・振り返りの充実を目指した授業を展開してきた結果、自分の考えをノートにまとめたり、友達に伝えたりしながら、協同して学び合える素地ができてきた。来年度も継続・強化していく。
- ・昨年度から全校体制でスタートした自主学習の取り組みは、保護者の方の協力もあり、定着が図られてきた。しかし個人差が大きいため、全児童が習慣化できるように、さらに強化していく。
- ・読書指導については、学校で読むだけでなく家庭にも持ち帰り読書をする習慣を身に付けさせる。そのために家読の日の目的や取り組み、保護者への協力依頼を、図書だより、ホームページ等で周知し、保護者との共通理解のもと推進していく。